

厚生労働科学研究費補助金（肝炎等克服政策研究事業）
分担研究報告書

非ウイルス性を含めた肝疾患のトータルケアに資する人材育成等に関する研究
（非ウイルス性肝疾患の多い沖縄県で活動する肝炎医療 Co 支援に関する研究）

研究分担者 前城達次 琉球大学病院第一内科 特命講師

研究要旨

沖縄県では肝臓病の第一の原因はアルコール性であり、近年は非アルコール性脂肪性肝疾患も増加傾向である。そのため肝炎医療コーディネーター（肝炎 Co）として肝炎ウイルス感染者への対応に加えて飲酒を含む生活習慣病を合併した肝臓病患者への対応も重要度を増している。近年の新型コロナウイルス感染拡大による自粛生活に関連したアルコール性肝疾患や脂肪性肝疾患患者の増加、肝炎ウイルス感染者の受診控えなど、対象者の状況も変化しており、結果的に肝炎 Co の状況も大きく変化していると思われる。本研究ではコロナ感染の環境における肝炎医療 Co の活動実態を調査確認するとともに、支援可能な方法を見つけ出し、コロナの影響がなくなる今後の活動に繋げることを目的とした。

【研究結果】

I 沖縄県で活動する肝炎 Co の現状調査

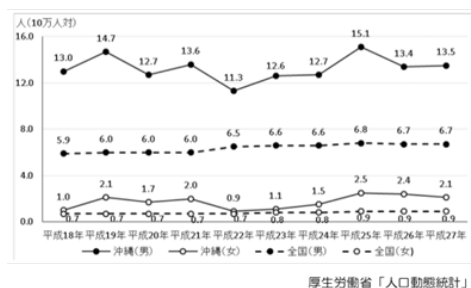
- ① 肝炎医療 Co の配置・職種について離島僻地では少数であり、その環境下では専門医の応援も少なく情報不足から活動低下につながる危険性が高いと判断できた。
- ② 活動の継続性では、特に行政や保健所の保健師、専門医療機関における肝炎 Co 配置転換などで活動が十分に継続できていない場合もみられた。
- ② 肝炎医療 Co 活動に関しては複数の問題点があり、最も重要なのは医療機関、専門医との効果的な連携を望む声が多かった。

II I の現状調査を受けて、肝炎医療 Co への情報提供を行う体制構築を試みた。WEB での情報提供だけでなく、肝炎医療 Co の横の連携体制を構築した。

A. 研究目的

沖縄県では肝臓病の第一の原因はアルコール性であり、近年は脂肪性肝疾患も増加傾向である。そのため肝炎医療コーディネーター（肝炎 Co）として肝炎ウイルス感染者への対応に加えて飲酒を含む生活習慣病を合併した肝臓病患者への対応も重要度を増している。

アルコール性肝疾患による死亡率（人口10万人対）



近年の新型コロナウイルス感染拡大による自粛生活と関連したアルコール性肝疾患や脂肪性肝疾患患者の増加、肝炎ウイルス感

染者の受診控えなど、対象者の状況も変化しており、結果的に肝炎 Co の状況も大きく変化していると思われる。現在の環境下で肝炎 Co の実情とその問題点を確認し、今後の活動に資することを目的として肝炎 Co の実情調査を行い、そこから見えてくる問題点に関して解決策を検討した。

B. 研究方法

1) 沖縄県における肝炎 Co の配置に関する調査；肝炎 Co 養成の責任者である沖縄県へ依頼して離島を含む県内での肝炎 Co の配置を検討した。

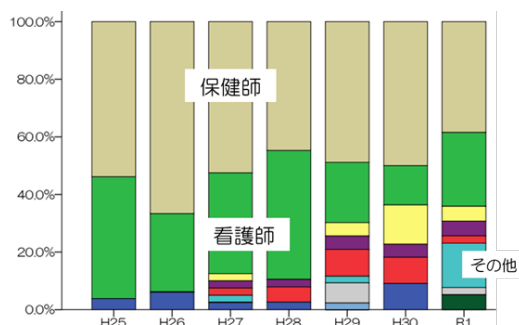
2) 沖縄県で養成された肝炎 Co の現状調査：現在まで肝炎 Co として連絡先が判明している 165 名に現状調査を行った

3) 肝炎 Co が活動する上で感じている支障や今後の要望などに関して調査した。

4) 実態調査に基づいて問題点を検討しその解決策を検討した。

C. 研究結果

1) 沖縄県では R1 年度までに合計 241 名の肝炎 Co が認定されている (R2, R3, R4 年はなし)。肝炎 Co の職種は複数あるが、当初は行政や保健所の保健師、専門医療機関の看護師のみに募集していたこともあり、保健師が多数を占めている。しかし近年は薬剤師やケースワーカーなども養成されてきている。



これらの肝炎 Co の多くは沖縄本島内の施設に配置されており、特に離島へき地域においては少数であった。

	認定者数 (%)
北部	28 (11.6%)
中部	91 (37.8%)
南部	97 (40.2%)
宮古	13 (5.4%)
八重山	10 (4.1%)
その他 (患者)	2 (0.8%)

加えて、沖縄本島北部地域や、離島における医療機関には肝臓学会専門医が勤務していないか、ローテーション医師しかおらず、肝炎 Co が専門医に気軽に相談できる環境ではないことが問題の一つとしてあげられた。

	二次医療圏	肝炎Co勤務	肝臓学会専門医
沖縄県立北部病院	北部	+	-
北部地区医師会病院		+	- (非常勤+)
沖縄県立中部病院	中部	-	+
中頭病院		+	+
ハートライフ病院		+	+
浦添総合病院	南部	+	+
沖縄県立南部医療センター		-	+
豊見城中央病院		+	+
那覇市立病院		+	+
沖縄県立宮古病院	宮古	+	-
沖縄県立八重山病院	八重山	+	+(ローテーション)
琉球大学病院	南部	+	+
なかぞね内科	南部	-	-
たいら内科	宮古	-	-

2) 肝炎 Co の現状に関して、肝炎 Co として認識できる活動ができていると返答する肝炎 Co は約 40%程度であった。近年増加傾向の薬剤師やケースワーカーなどの職種の肝炎 Co はそのまま肝炎 Co としての活動を継続できる場合が多い。しかし大多数を占める保健師や病院看護師などは配置転換や離職などで肝炎 Co としての活動ができないケースも見られた。特に新型コロナウイルス感染拡大の状況から肝炎対策専門で対応していた肝炎 Co がコロナ担当になるケースも見られた。

【事例】
✓ 自治体感染症担当 → 難病担当
✓ 保健所感染症担当 → 自治体生活習慣病対策へ
✓ 病院外来で肝炎Coとして活動 → 一般外科病棟へ → コロナ病棟へ
✓ R2年度に感染症+生活習慣病関連で共同活動した保健師もR3からは新型コロナワクチン接種担当業務へ。

3) 肝炎 Co が活動する上で支障になることや要望に関して。主には①医療機関に対す

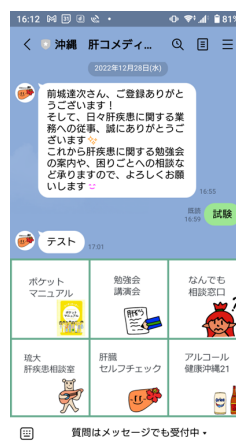
る要望、②専門医がいない地域的な問題に関して、③肝炎ウイルス感染者に対する説明の上での問題、④生活習慣病患者に対する指導における困難さなどがあげられる。①に関する具体的な要望として肝炎ウイルス検査を詳細に行える施設の情報不足、健診結果から医療機関への受診勧奨、その後の受診確認、情報提供、健康相談、健診受診の継続の要望、受診結果の説明がどの程度まで行われ、ご理解いただいているか不明な点、患者への指導にあたり、無関心にさせないような丁寧な説明を希望していること、健診異常で受診した住民が処方や次回受療案内がないことで自分には異常ないと安心する説明方法などがあげられ、地域の医療機関と連携不十分なことに起因すると思われた。②専門医が不在な事に関して、肝機能異常で要医療の方も多く、特に専門医受診のために交通費の問題なども現実的な問題として挙げられた。専門医が少ない地域では連携がとれる施設の情報、その環境整備が強く望まれていた。さらに③④に関しては肝炎ウイルス感染者の治療適応、経過観察の重要性などの説明の難しさや、飲酒を含む生活習慣改善を理解させ実行させることの困難さ、などの問題点について、その情報確保の方法、指導における困難さについて、他の肝炎 Co との情報共有が望まれていた。

4) 現状調査から①地域の医療機関との連携不足、専門医不足の問題、②各疾患についての情報不足、情報確保手段の不足、③肝炎 Co 道おしの情報共有の機会の不足などは主な問題点としてあげられた。①の問題点について、専門医不足に関しては多くの要素から成り立っておりすぐの解決には難しいが、肝疾患拠点病院が各医療機関との仲立ちを行うことから始めることとした。②の疾患についての情報については、拠点病院からの情報提供の機会を持っていたが、それ

だけでは現場のニーズに十分な対応とは言えないと思われた。そのため③で行う肝炎 Co 道おしで情報を共有し、現場で具体的に必要な情報などについて講習会などを開催する事とした。それを実現するために肝炎 Co を中心としたメディカルスタッフの集まりを定期的に行うこととした。



また情報共有や専門医への質問をさらに気軽に行える方法として LINE による連携体制を構築した。具体的には勉強会や講習会などの情報発信、一般の現場で利用できる FIB4 index や脂肪肝の評価方法、アルコール飲酒の状態把握方法などについて、確認可能なサイトに直接つながる形式を構築した。



D. 考察

沖縄県における肝炎 Co 配置の問題として、主にその地域的偏在と職種の問題があげられる。沖縄本島内の中南部地域では比較的多くの肝炎 Co が勤務していた。一方、離島へき地地域では肝炎 Co は少数であった。さらに離島へき地地域では肝臓専門医も少なく、肝炎 Co からの受診先の提案や気軽に相談できる環境にないことが問題としてあげられる。後述の紹介先医療機関との連携不十分な問題も併せて肝炎 Co や医療機関との連携を構築することが重要であると思われる。また肝炎 Co の職種に関して、沖縄県では本制度の開始直後から大多数は自治体、保健所の保健師、専門医療機関の看護師を中心に募集をかけたことからこれらの職種が多い。しかしこれらの職種の肝炎 Co は定期的な配置転換などがあり、長期的に継続して肝炎 Co の活動ができていない。これらを速やかに解決することは困難かと思われるが、逆に肝炎 Co 活動の継続性を確保する連携体制ができないかどうか、今後各保健師、看護師の肝炎 Co と検討する必要があると思われる。

肝炎 Co が活動している状況で支障になることに関しては、複数の要因が考えられた。医療機関との連携不十分な点からは肝炎 Co のモチベーション低下に繋がることが危惧される。この点に関しては医療機関、特に医師の対応が重要であると考えられるが、肝炎 Co をはじめ各地域の保健師が困っている現状を医師会や他の多くの機会を通じて周知していく必要があると考えられた。今回の検討で明確になった点の 1 つに今までの医師からの一方通行の情報だけでは、現場の必要性に十分に答えられていない可能性があると考えられた。そのため肝炎 Co どのしの連携体制構築を試みた。方法としては定期的な肝炎 Co の会議だが、そこには医師はサポートとして参加するのみで肝炎

Co や看護系大学の教員などに参加していただく。加えて LINE での連携体制も構築し、現場の肝炎 Co が実際に必要としている情報を提供、共有しそれを拠点医師へ伝えより効果的な講演会などを開催することを目的とした。しかし最終年度ではこの体制構築までは行ったが、今後はこれらを運用してその効果や問題点などを確認する方針である。

E. 結論

3 年間の研究成果として①沖縄県における肝炎 Co の実情と問題点を確認。②肝炎 Co 間の情報共有や連携がしやすい体制構築として肝疾患に対応している保健師も加えたミーティングの開催、肝疾患に関わるメディカルスタッフ参加の LINE の構築などを行った。また行政施策への貢献としてはコロナ感染によって新規肝炎 Co の認定が進まない中で、現場で苦勞する肝炎 Co、保健師などへの支援の一助になると考えられた。今後考えられる残された課題として肝炎 Co だけではなく、肝炎 Co 以外のかたへ応援体制も充実させることが重要であると思われる、特に肝炎ウイルス感染者だけではなく、それ以外の肝疾患患者さんへの対応もできるように幅広く支援することが重要であると思われる。

F. 研究発表

1. 論文発表

・ Clinical Outcomes in Biopsy-Proven Nonalcoholic Fatty Liver Disease Patients: A Multicenter Registry-based Cohort Study. Fujii H, Maeshiro T, et al. Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD). Clin Gastroenterol Hepatol. 2023 Feb;21(2):370-379.

・ Trends of hepatitis B virus genotype distribution in chronic hepatitis B patients in Japan.

Sakamoto K, Maeshiro T, et al. J Gastroenterol. 2022 Dec;57(12):971-980.

・ Age-dependent effects of diabetes and obesity on liver-related events in non-alcoholic fatty liver disease: Subanalysis of CLIONE in Asia.

Seko Y, Maeshiro T et al. Japan Study Group of Nonalcoholic Fatty Liver Disease (JSG-NAFLD).

J Gastroenterol Hepatol. 2022 Dec;37(12):2313-2320.

・

2. 学会発表

・ 当院における D 型肝炎ウイルス感染症の経験 琉球大学病院 前城達次 第 119 回日本消化器病学会九州支部例会抄録集 27 ページ

・ コロナ禍における肝炎医療コーディネーターの活動及び連携への取り組みと今後の課題

琉球大学病院 看護部 砂川綾美 第一内科 前城達次 第 120 回日本消化器病学会九州支部例会抄録集 24 ページ

・ 地域連携を活かした肝炎コーディネーターの活動 北部地区医師会病院 漢那香織 琉球大学病院 前城達次 第 120 回日本消化器病学会九州支部例会抄録集 25 ページ

・ 当院及び関連施設におけるアルコール性肝硬変患者の検討 琉球大学病院 前城達次 第 120 回日本消化器病学会九州支部例会抄録集 33 ページ

G. 知的所有権の取得状況

なし

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

・ 肝炎医療コーディネーター、医療従事者研修会(2022/7/8) 講師 琉球大学田端そうへい 大阪公立大学 藤井英樹

・ 日本肝炎デーに因んで。アルコール性肝疾患について 沖縄医報 Vol. 58 No. 6・7 114-117. 2022

・ 沖縄県メディカルスタッフ講演会(2023/3/2) 講師 ロコメディカル江口病院 松本さと美 江口有一郎

・ 沖縄県宜野湾市における問診票別添

